

第3回富山県総合計画審議会

1 日時：平成30年2月6日(火) 14:00～16:00

2 場所：ホテルグランテラス富山 4階 瑞雲の間

3 出席委員（五十音順）

永原審議会会長、遠藤会長職務代理者、高木活力部会長、金岡未来部会長、
岩城安心部会長

石塚委員、板倉委員、伊藤委員、稲垣委員、庵委員、内山委員、梅田委員、老月委員、
大井委員、大西委員、小川委員、尾谷委員、尾畑委員、尾山委員、片貝委員、
勝田委員、金森委員、神川委員、川村委員、久和委員、槻委員、小見委員、惣万委員、
高田順一委員、高田洋信委員、藤井委員、宮田委員、麦野委員、村井委員、山下委員、
横井委員、吉田泉委員、吉村委員、和田委員

4 議事

- (1) 各部会の審議結果の報告について
- (2) 新総合計画答申案について

5 発言要旨

(1) 知事挨拶 石井知事

- ・ 本日、第3回目の富山県総合計画審議会を開催しましたところ、永原会長をはじめ、各部会長の皆さま、また委員の皆さまには大変お忙しい中、また足元の悪い中をご出席賜りまして、誠にありがとうございます。
- ・ 一昨年12月に、新しい総合計画の策定につきまして諮問させていただきました。以来、この審議会や、また各部会、地域委員会、さらには各市町村長さんや県議会議員の皆さまとの議論も実施してまいりましたし、また若い世代の皆さんのご意見も聞きたいということで、総合部会の下に青年委員会を設けて審議をしてまいりました。おかげをもちまして、今の時代状況を踏まえた新たな総合計画の骨格ができつつあるなどありがたく思っております。今日はこの新総合計画の答申案を提示させていただきますので、委員の皆さまには十分ご審議いただいて、答申の取りまとめをお願いできればと思っております。
- ・ ちょうど今、平成30年度の県予算の大詰めの時期になっておりますので、この計画の中でできるだけ速やかに実施すべきこと、また少なくとも30年度に将来を見据えて布石を打つべきことについては極力30年度の当初予算に盛り込みたいと、そういうふうに思っているわけです。
- ・ なお、最近の情報として、昨年、富山県の人口が、社会移動ですけれども、外国人の方を含めるとプラス226人になったと、11年ぶりにプラスになったというご報告をしておりましたが、その後、新しい数字が出まして、この数字が358人ということになりました。もちろん外国人を含めた数字ですけれども、さらに1年たつて226人

が 358 人になったというのは大変ありがたいと思います。ただ、外国人の方を除きますと、やはりマイナスでありまして、東京の引力が強いなどと思っている次第であります。そのためにもご承知のとおり地方大学の振興を図ろう、地域産業の活性化を図ろうということと、併せて、東京 23 区へ学生さんがこれ以上集中するのを抑止しようといった法案も政府に出していただく、予算措置も講じていただくという運びになっております。

これからも大いに議論もしながら、同時に方向づけができたことは、県として責任を持ってやるべきことは市町村や民間の皆さんとしっかり連携しながら実施してまいりますし、またこの政策を実現するにはどうしても中央政府にご協力、あるいは新たな方向を示していただかなくてはいけないということについては、これからもしっかり政府に働きかけをして富山県の新しい未来を築いていなければいけないと思っております。そんな思いで今日は臨ませていただきました。今日はよろしく申し上げます。

(2) 各部会の審議結果の報告について

【永原会長】

- それでは、これから、会議を進めさせていただきます。新総合計画につきましては、一昨年 12 月に計画策定の諮問を受けまして、以来、審議会と四つの部会で検討を進めてまいりました。昨年 5 月の審議会では計画の骨子案について取りまとめた後、さらに内容の充実を図り、昨年 10 月から 12 月にかけて開催した各部会におきまして、答申に向けた素案についてご審議いただいたところであります。

本日は、最終の審議会となりますので、各部会での審議を踏まえて策定いたしました新総合計画答申案についてご意見を頂き、取りまとめを行いたいと考えております。皆さまの活発なご議論と円滑な進行についてご協力をお願いいたします。

- それでは、次第 3「各部会の審議結果の報告について」に入ります。昨年 10 月から 12 月にかけて行われました第 3 回目の各部会の審議結果につきまして、各部会の部会長さんから報告をお願いいたしたいと存じます。まず初めに活力部会について高木部会長さんからご報告をお願いします。

【高木活力部会長】

- 活力部会では、これまで所管する産業、労働、農林水産業、交通基盤、都市、情報・通信、そして観光ブランドなど、さまざまな分野の基本政策の他、重点戦略や長期構想についても検討を行ってまいりました。昨年 10 月 27 日に第 3 回部会を開催し、これまでの部会の議論も踏まえて、答申検討案について審議を行いました。第 3 回部会においては、次のようなご意見がありました。
- まず、基本政策でございますが、産業・雇用の分野では、「IoT、AI などの導入のプロセス、日程表を早急に作成して進めることが大事である」。また「中堅中小企業が IoT の導入メリットを感じられるよう、良好事例の積み重ねも必要である」。また「県のものづくりを支える人材確保・育成が重要である」。そして「後継者人材バンクなど事業承継対策にも本腰を入れて取り組むべきである」といった意見でございました。
- また、農林水産業分野では、「農業でも労働人口の減少や高齢化が進展しているこ

とから、ドローンなどハイテク技術も活用し、若い人に魅力あふれる農業というイメージを持ってもらえるようにすることが必要である」。また「富山米新品種の『富富富』が、コシヒカリと肩を並べるようなブランドに成長するように、販路なども含めてPRも必要である」。

- ・ そして観光の分野では「最近増加しているインバウンドの旅行者への対応のさらなる推進が必要である」。また「沖縄県に見られるように、小学校から、早い段階から観光の重要性について学ぶ観光教育にも取り組むことが有効ではないか」などという意見でございました。
- ・ 次に、長期構想に関する意見としましては「豊かな海と水の王国のとやま構想において、森、里、川、海を通じた水資源の循環が大事ではないか」という意見がございました。
- ・ そして最後にその他、計画全般に関する意見としましては「運営に当たっては世の中の環境変化に合わせて柔軟な姿勢を持って計画を変えていくことも必要ではないか」。「計画実行に当たっては、県はあくまでディレクターであり、主役は県民や県内企業であることを念頭において取り組む必要がある」。「県民参加による計画を実行していくためにも良いアイデアを出したり、汗をかいたり、ご寄付をいただいたりした方々を表彰し、民間の活力をより取り入れる仕組みづくりが必要である」などという意見がございました。
- ・ そして答申案につきましては、資料 4-1 のとおり、基本計画「活力とやま」を取りまとめましたところです。この「活力とやま」では、「勤勉で進取の気性に富む人材、恵まれた自然、歴史、文化、交通・情報通信基盤、産業集積などを活かし、創意工夫、意欲ある取組みが展開されている「活力」あふれる」富山県の実現に向けて 30 の政策を掲げております。
- ・ 特にIoTの導入など第4次産業革命への対応とともに、ものづくり県である本県の強みを活かし、新たな成長分野への参入などによる強い産業の育成と雇用の確保、そして農林水産業における担い手の育成・確保や、県農林水産物の高付加価値化、ブランド力強化についても書いてあります。また、北陸新幹線の大阪までの早期全線整備の促進と、新幹線開業効果の持続・深化、県内における陸・海・空の交通基盤の整備などについて記載してございます。
- ・ また「海のあるスイス」を目指した観光振興や、地域の資源を活かした個性的で魅力あるまちづくりの推進など、富山新時代における活力の創出につながる内容になったものと思っております。

【永原会長】

- ・ ありがとうございます。では次に、未来部会について金岡部会長からご報告をお願いします。

【金岡未来部会長】

- ・ 未来部会では、所管する子育て支援や少子化対策、学校教育、家庭・地域の教育力、芸術、文化、スポーツ、国際交流、景観づくり、森づくりなどの分野の基本政策や重

点戦略などについて、審議会委員 13 名、専門委員 9 名、計 22 名にて議論を行ってまいりました。なお 22 名の委員のうち、12 名が女性の委員でございますので、女性の皆さまのご意見を十分に反映できたものと思います。

- ・ 議論は昨年 1 月 25 日に第 1 回の部会を開き、4 月 26 日に第 2 回、ここで骨子の検討を行いました。そして 10 月 17 日に最終の第 3 回の部会を開催し、最終答申の検討を行ったところでございます。
- ・ なお、この最終の第 3 回部会におきましても、貴重なご意見を頂きました。幾つかご紹介申し上げます。まず、基本政策に関する意見としては、「第 1 子、第 2 子の育児が楽で楽しく、また県に守られているという思いがあってこそ第 3 子であり、子育て応援券の充実をお願いしたい」「国では、生涯学習において、地域に山積している課題に関する課題解決型講座にも取り組むべきとされており、そういった視点を組み入れてはどうか」「都会に比べると美しい音楽を聴く機会が少ないように思う。美術館で子どもたちに音楽、演奏を聴かせるような企画があればよい」。オリンピックの出場者数の指標に関しては、「本県出身者だけではなく、他県で生まれたけれども富山県の選手として国体に出たり、富山県の子どもたちに指導している方々についても対象にしてほしい」「屋外広告等は、例えば葉のとやまらしさを出すようなものであってほしい。見る人が気持ちの良い看板であってほしい」などの意見がございました。
- ・ また、計画全般に関する意見としては、「どのように行政と県民あるいは企業が連携して計画を推進していくかといった点への言及が必要」などの意見があり、県民にどのようにこの計画を分かりやすく伝えていくのかが今後重要になるかと思えます。こうしたご意見を踏まえ、文言の細かな修正を図り、資料 4-2 のとおり基本計画「未来とやま」を取りまとめたところです。

概要を申し上げますと、この「未来とやま」では、「明日を担う人材が健やかに育まれ、文化・スポーツの振興など多彩な県民活動、ふるさとの魅力を活かした地域づくりが進められている「未来」への希望に満ちた県」の実現に向け、28 の政策を掲げております。

特に 1、県民希望出生率 1.9 の実現に向けて、出会いから結婚・出産・子育てまでの切れ目のない支援による少子化対策の総合的な推進。2、真の人間力を育む学校教育や家庭・地域の教育力の向上に取り組み、未来を担う人材を育成するとともに、社会人に向けたリカレント教育など、生涯にわたる学びの推進。3、芸術・文化への出会いや創造の機会の充実や、スポーツ活動、ボランティアなど多様な県民活動の推進。4、移住の促進や、中山間地域の活性化、自然・歴史・文化など、地域の魅力のブラッシュアップや景観の確保など、魅力あふれるふるさとづくりなど、明るい未来志向であると同時に、足元を謙虚に見つめた内容になったものと考えます。

【永原会長】

- ・ ありがとうございます。引き続き、安心部会について、岩城部会長さんからご報告をお願いします。

【岩城安心部会長】

- ・ 安心部会では、これまで安心部会が所管する医療、健康、福祉、環境・エネルギー、安全・安心などの分野の基本政策や重点戦略について議論を行ってまいりました。昨年10月19日に第3回部会を開催し、答申検討案について検討を行いました。
- ・ 第3回部会では次のような意見がございました。まず、基本政策に関する意見としては、「健康寿命の延伸に向けては、健康に生きることの重要性を県民の方に自覚してもらうためのPRなどが重要であり、例えばスポーツイベント等で、食育講座や健康診断を行うことができないか」。それから「地域での介護予防等の活動にもっと多くの元気な高齢者が主体的に参画する仕組みを構築することが必要である」。また、「地域での住民同士の助け合いなどを活発化させることができる相談支援のプロを育成することが必要である」。そして、「地域で高齢者や障害者等を支える人材の育成が重要である」という意見がございました。
- ・ また、イノシシなどの野生鳥獣対策につきましては、「狩猟者や管理者だけでなく、県民みんなができることから知恵を出し合い、協力して対処していくことが大事であり、その環境づくりに取り組むことが必要である」という意見がございました。また「いざ災害になったときに、救助などがうまく機能していくためには、関係者、関係機関と調整ができるコーディネートの育成が重要であり、また普段から顔の見える関係を構築していくことが重要である」などの意見がございました。
- ・ また、計画全般に関する意見としまして、「この計画の内容を県民に分かりやすくお見せするための、例えば索引などを設けるなどの工夫が必要である」などの意見がございました。
- ・ また、答申案につきましては、こうした意見などを踏まえまして、資料4-3のとおり、基本計画「安心とやま」を取りまとめたところでございます。この「安心とやま」では、「豊かな自然や生活環境を活かし、住み慣れた地域の中で、健康で快適に、安全で「安心」して暮らせる県」の実現に向け、27政策を掲げておりますが、その中で特に身近な、地域で安心して質の高い医療を受けられるように、医療人材の養成・確保、医療提供体制の充実や、県民一人一人が心身共に健康な生活を送ることができるよう、健康寿命日本一に向けた機運の熟成や生活習慣の改善の実践が必要であると。それから高齢者・障害者などが住み慣れた地域で生活し続けていくための地域共生社会の実現に向けた県民の福祉意識の高揚や、人材の育成、保健・医療・福祉の連携強化が必要であると。それから、食品ロス対策や、3Rの推進など、循環型社会、低炭素社会づくりの構築や、自然環境・生活環境の保全、再生可能エネルギーの導入などによる持続可能な地域づくりの推進。また、東日本大震災などを教訓とし、防災・減災の考えを基本に、消防力や地域防災力の強化、地震、津波、火山などをはじめとした各種災害への総合的な対策の推進など、県民の安心の確保に資する内容になったものと考えております。

【永原会長】

- ・ ありがとうございます。それでは最後に総合部会につきまして、遠藤部会長さんからご報告をお願いします。

【遠藤総合部会長】

- ・ 総合部会におきましては、本県の目指すべき将来像や基本目標、県づくりの視点などの総論部分の他に、重点戦略、重要政策「人づくり」、「地域別の特性と取組み」、「長期構想」、さらには他部会との調整など、計画全般にわたる事項について検討を行ってまいりました。

また、総合部会の下に、新川・富山・県西部の三つの地域委員会を置き、各市町村や各分野の代表の方々に意見交換、議論をしていただいております。また、将来の富山県を担う若い世代、主に30代の中心の青年委員会を設置させていただき、具体的な政策プランを含めながら、若い方々の柔軟で創造性あふれるご提言を頂いております。

- ・ これらのことをまとめて12月20日、第3回部会を開催し、今これまでご報告のありました3部会の議論も踏まえながら答申素案の全般について検討を行い、議論をし、まとめをさせていただきました。
- ・ 意見としましては総論、重点戦略に関し、今各部会からご報告を頂いたところと重なるところがございましたが、さまざまな意見を頂きました。重要政策「人づくり」に関しましては、やはりお互い人々が互いに生きていくために支え合う思いやりの心、それからイノベーションリーダーをどうやって作るか。また個々が、個人が有する技能やスキルの社会的評価を高めながらどのように連携して価値観を高めていくかというようなことが議論されました。地域別のことにつきましては、地域の特性を鑑みながら、かつ高岡と射水、あるいはさらに砺波を包括するような形で、より広い連携を取りながらの戦略が必要であろうという議論をさせていただいております。
- ・ それから、長期構想に関しては、テーマとして「水がつなぐ豊かな海・里山構想」がございましたけれど、この富山県の水産資源の保全の観点からも、県民総参加の活動として取り組んでいただきたいという意見がございました。
- ・ これらのことをまとめて、最終的に総合部会として一つ意見としてまとめられたのは、今回の計画全般ですけれど、県民一人一人がやはり力を合わせて県民自身が行う。そしてこのためにはいかにこの重要性を知ってもらうかが重要なので、説明のされ方、もっと分かりやすい大胆な説明をしていただくのが必要であるのではないかという話をさせていただきました。
- ・ 答申案につきましては、資料の2、3、それから5、6、7に取りまとめてございます。

まとめの中で、3点、答申案を作るに当たってのポイントとなったところを申し上げます。第1ですけれど、本答申案は経済社会のグローバル化の進展、少子高齢化の進行と、人口減少社会の到来など、時代の変化や新たな重要課題に的確に対応するため、おおむね10年先を見据えた先見性と戦略性のある県政運営の指針となるように策定させていただきました。

その内容の中で2点申し上げます。一つ目の重点戦略のところでは、人口減少社会の到来などの時代の変化に迅速・的確に対応し、富山県のさらなる発展のため新たな価値創造や人口減少社会における地域の活性化など、特に重点的に取り組むべき五つの戦略を設けております。

それから、二つ目ですけれど、重要政策「人づくり」のところでは、生産年齢人口

の減少による社会活力の低下が懸念される中、社会の担い手として、全ての人がそれぞれのライフステージにおいて、その意欲と能力に応じて活躍できることが重要であり、そのための環境づくりに必要な取り組み、これを15の政策に体系化しております。政策体系が例えば資料5のところにございますけれど、1～5がありますが、それぞれ3項目入っております、15項目挙げております。

- ・ この他、長期構想においては、資料7、これに関しましては、今回の計画期間は10年ということでありまして、それよりもさらに長い長期的な展望に立って、将来の富山県の発展につながり、活力と魅力にあふれる富山県を次の世代へ引き継いでいけるようなビジョンということを示しております。

【永原会長】

- ・ 各部会長さん、ありがとうございました。以上、各部会の審議結果の報告をしていただきましたが、これらの4部会での審議結果を踏まえ、今回お手元にあります新総合計画答申案がまとめられているところであります。

それでは引き続き、次第4「新総合計画答申案」につきまして、意見交換に入ります。まず、事務局から一括して資料の説明をお願いします。

(3) 資料説明

<事務局より資料1～7及び参考資料1～2を説明>省略

(4) 意見交換

【永原会長】

- ・ それではこれから、委員の皆さまからご意見を頂戴したいと存じます。今回は、最後の審議会ということもありまして、それぞれの答申案の内容に関するその他、これまでの議論も踏まえて、今後の計画の進め方やこれからの県政に期待することなどについてもご意見を頂戴したいと存じます。

どなたからでも結構でございますが、いかがでしょうか。

【川村委員】

- ・ いろいろまとまったわけですが、いよいよこれからやはり県がやるとかではなくて、この資料2の3ページの県民と県が将来像を共有する計画という中に、県のみならず県民の皆さま、企業、大学、いろいろな関連団体、これがしっかりと自分の分野も含めて自分のこととしてやはり連携したり、協働したりしながら実現していくという、こういう方向にこれがまとまったわけですから、心構えをしっかりとしているなど、いろいろなところで取り組んでいかないと、なかなかこれは実現できないのかなと思いますので、われわれとしても、私らの関係する企業はもちろんですけれど、商工会議所や富山県や各行政などと一緒になって、こういう方向にしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

【神川委員】

- ・ 膨大な資料が出来上がってきて、本当にきめ細かく、100 の政策が整理されて、本当にもれなくまとまってきている心強さを感じております。「新幹線時代の新たな挑戦」ということなのですけれども、過去 10 年、過去 20 年よりも、これから先の 10 年、20 年がもっとスピードが上がっていくのではないかという気もしておりますので、素晴らしいものがまとまってきたのですけれども、ところどころ今度はリニア時代を意識しながらといいますか、さらにスピード感をもって確認をしていかなければいけないという緊張感を私も持っております。
- ・ そして、その中で、やはり、私は未来部会の副部会長をさせていただいたのですけれども、今の若い方々が富山県でぜひさまざまな場面で貢献していきたいと思えるように、若い人とのコミュニケーションというものをそれぞれ産官学金、いろいろなところで世代間のコミュニケーションをしながら若い人の意見を吸い上げて、さらに PDCA のチェックをしっかりとしながら長期構想も作っていただきましたので、そこを見据えてしっかりと進めていかなければいけないかなと実感いたしました。
私は最近だんだん若い人との接点が減ってきているので、常に若い人とのコミュニケーションをして新しい感覚を失わないようにして、人生 100 年時代にチャレンジしていきたいという意欲も新たにいたしました。取りまとめ、ありがとうございました。

【金森委員】

- ・ この新総合計画の構成のことですけれども、第 6 章に書いてございますけれども、計画の実効性の確保と推進ということに尽きるわけだと私は思っております。
と、申し上げますのは、われわれの市町村はそれぞれの総合計画を持っているわけでありまして、そういった計画と県の計画との整合性を取りながら、これを実行していくということも大切なことでもありますので、私も県民の一人でございますので、やはり共に実行に向かって取り組んでいくという姿勢が大切であると思っています。
- ・ そういったことが、粛々と述べられているという計画になっているということで、非常に私はそういった意味で優れているのではなかろうかと、このように思っております。そういうことで、この計画の実効性につきまして、私は大変有効であると、このように思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

【尾畑委員】

- ・ 私は安心部会を中心に、部会の皆さんと一緒に考えさせていただいた一人でございます。活力、未来、安心、この三つのそれぞれの柱と、もう一方の長期と重要政策とが経糸と横糸のように少し重なり合いながら構成されているという印象を持ちました。しかし、「人」が何よりも大切であり、その上にこの三つの柱でもってうまく将来に向けて歩みだしていけばという風に思います。この構想（プラン）は非常にスピード感を持って作られたと思いますけれども、この後は、このプランがここにお集まりの皆様が協力して未来に向けて着実に実現に向けて進めていくというように。このようになることを願っています。感想になってしまいますけれども、そんなことを思いました。

【稲垣委員】

- ・ 確か最後の総合部会で少し森林資源と水資源のお話を申し上げたような気がしています。そういう中で、個人的には長期構想の中で、その循環について重要性を高めていただいたということに大変感謝を申し上げたいと思っています。
- ・ この全体的にはなかなか大部にわたっておりますので、なかなか全てを掌握することができないのですけれども、今後はやはり10年にわたってこれを進めていかれる中で、当然この政策については、定量的な目標があって、今の段階ではこうだということを定期的にチェックされていくかというふうに思います。経済的な指標でいうと、実はなかなか難しいかもしれませんが、国で言えばGDPという指標がございすけれども、県でもやはり県内総生産というような、これはどれだけの精度があるのかちょっと分かりませんが、多分富山県の場合、4兆なにかという金額が推測値では出ているかと思うのですけれども、そういったものについての一つ把握をされて、定量的なトレーシングをされていったらどうなのかなという感じがしています。

なぜこういうことを申し上げるかという、実は先日ある会合で、観光産業についてのお話をお聞きしました。今、世界的な観光産業の立ち位置というのが、GDP比で平均的には約10%というふうに言われているそうであります。多分、隣県の石川県では、多分富山県と同じぐらいの県内総生産だと思うのですけれども、15%内外が観光産業から来ているというような話も聞きました。これは人口減少社会で考えますと、ある意味では需要というものが減少していく中で、それを埋める大きな鍵になってくるのかなという感じがしておりますので、そういった意味で、ここでも観光といった部分を非常に大きく取り上げていращやるのですけれども、例えば県内総生産における観光産業の比率のようなものの目標値も少し指標として今後トレーシングされていったらどうかなという感じがいたしました。

【板倉委員】

- ・ 未来の富山県をつくる設計図、大変細かなところまで配慮された素晴らしいものだと思っております。これの実現のために、県民以下それぞれの部分で全力を出して実現できるように邁進していかなければならないのだろうなと思っております。
- ・ いろいろな機会に申し上げているのは、人づくりということ、本当言うと「人づくり」という言葉自体いかなものかなと思っておりますので、別な言葉があればそれにふさわしい言葉でお話ししたいと思います。なかなかボキャブラリーが不足しておりますので、そういうふうに忸怩たる思いをしながら、人づくりが大事なのだろうなと思っております。なかんずく当然皆さん、教育というのが一番大事というふうに思っておられると思います。計画の中でもさまざまな提言がありますので、そういったものに一つ一つ具体的な行動があればいいのだろうと思うのですけれども、一つだけ、さまざまな教育環境を整えるというのはもちろん大事なのですけれども、その中で教育に当たる人、この提言の中でもありました、教職員の質の向上というものがございましたけれども、これにかなりウエイトを置いてやっていただきたいなと思っております。

この1年振り返ってみても、教員にふさわしくないような人たちがたくさん出

ておりますので、やはりそうしてここに書いてありますように、大量の退職者というものがあって、採用しなければいけないということも書いてあります。当然のことながらこれまでの経験則から言っても、大量に採用したときは必ず質が低下します。絶対そういったことにならないように、きちっとしたプログラムなり、あるいは具体的な方法をもって質の向上に努めていただきたい。それはやはりそういう刺激を、人間の中に置かれた子どもの立場に立ってみても当然だと思いますので、ぜひお願いをしたいと思っております。

【和田委員】

- ・ 大変多くのこの計画を、作成していただいたことを、とても今日だけでは終わりにたくない、私はこれを勉強させていただくに1カ月も2カ月もかかるのではないのかなと思って資料を見ておりました。それで、10年で、中には5年を経て見直すもの、3年を見て見直すものもあるかと思いますが、この100の政策を淡々と進むのではなく、やはり価値評価を得て、そういう評価を掲げながら進んでいっていただきたいなと思っております。それは県の方でA、B、Cにするのか、点数にするのか私は分かりませんが、必ずこれは絶対に全部というわけには進んでいかないと思うので、やはりそうやってあわてず横と縦との連携をもしていただきたいなと願っております。
- ・ それで、今ほど北日本新聞の板倉さんからも言われましたが、私は以前から人をつくるものではないという、「人づくり」という言葉は嫌いということは、何年前から言っておりますが、人は生まれてくるもので、人は生むものでありますので、やはりこの文言は「人材の育成」や「人材を育む」「生む」に、これは国自体のものかもしれませんが、そういう文言に少し柔らかくしていただけた方が、「人ってどこからどうやってつくるんですか」と。物は作るものであるのは間違いありません。人が作るのですから。でも、私は思うのですが、やはりそういう中心になる人たちをつくるということだと、育てていることだと思っておりますので、なかなかこのことで私も随分何年間、考えてまいりました。それでやはりこの資料1ですが、第5章の県政運営の基本姿勢のことで、やはりこれに重点を置きながら、私たちはもって行って改革していくという、楽しい県政にする、魅力ある県政になってほしいという、そういうものを望んでいきたいと私は思っております。

【大井委員】

- ・ 改めまして、この基本理念の目標ですが、「みんなで創ろう！ 人が輝く 元気とやま新時代」ということで、端的、的確に表現されており、県民の皆様にも分かりやすいと思います。
- ・ 住み慣れた地域で自分らしく生きるということになりますと「富山で生まれてきてよかった」、そして人生の最期を、「富山で終わることができてよかった」と思えるような、そういう県づくりというのはすごく大事なことではないかなと思います。そういった中で、一人一人が自分の能力や意欲を持って計画に取り組んで、そして県全体が輝くようなものになればいいのではないかなと思った次第です。

【宮田委員】

- ・ 短大・大学の方で、主に福祉・保育等を中心にしてしまして人材育成に取り組んでまいりました。その立場から今どうこの総合計画を受け止めたらいいいのかなと思っております。それぞれの分野で人材育成、人づくりは大きな課題だということを言われております。ものづくり、あるいは情報、農林水産、あるいは保育・介護、それぞれの分野でハード・ソフトの面で、この地域の産業全体として必要とされる人材の量や質など、このことが今、改めて大きな課題になっているのではないかと感じております。
- ・ 少々古い話なのですが、総合計画ではなく、総合開発計画とっていたころの、ちょうど新産業都市を目指して、そして高度成長に向かってどんどんみんな頑張っていた時代の計画のころを、私自身も団塊の世代ですので、思い起こしますと、3・7体制という、いわゆる新産業都市を担う人材を育成するための教育計画があったわけですね。その後、だんだんいろいろな考え方、検討がされてきて、徐々にこの3・7体制、普通科が3で職業科が7という、これは是正をされてきているのですが、それはそれで意味があったのだらうと思いますが、今日ではかなり普通科シフトあるいは県外志向や有名私大、あるいは国公立志向ということが強まってきているような気もいたしております。

当時、なぜその普通科に皆さんこだわって、3・7体制はけしからんというような議論が出たかといいますと、やはり大学や短大がほとんどなかった時代だと思うのですね。県内には富山大学、そして大谷技術短期大学と富山女子短期大学ができたばかりというころでして、高校の職業科に行ったら将来はもう進学するところがないというふうなことなどが高度成長の時代で、みんなの大学進学希望がちょっとそがれるような、そういう環境を皆さん感じたからではなかったかなと思うわけです。ところが、今日では、短大、専門学校、それから地方私大もそれぞれ地方で、地域で学んで地域で就職して、地域で活躍して、地域で結婚・子育てをして、地域を支えていくという人材を養成している場がいっぱいあるわけですね。ですから、そろそろトラウマとはいいませんけれど、もう少し高等学校の段階、いわゆる後期中等教育の段階で、産業政策・産業計画に見合う教育計画で人材計画を具体的に策定して今後取り組んでもいいのかなというふうに思っております。

- ・ 「活力とやま」と「未来とやま」のこの二つの部会のつながりの部分が、どうも一つ抜けているような気もしております。やや辛口かもしれませんが、高等学校段階での職業教育をどうするのか、そういったようなことを、いわゆる産業教育という視点でもっと具体化、この後、個別計画の中で具体化していければいいなというふうに思っております。

【久和委員】

- ・ 本当に大部といいますか、内容の豊富な計画をまとめられて、まとめられた皆さんに敬意を表したいと思っておりますけれども、この中で特に今後の方向性としてグローバル化というのは非常に大きな要因になってくると思います。特に近隣のアジアでも中国などはもっと力を持つような世界になってくると思いますので、その中で、県単位に考えるというのでは全然対応ができないということになると思いますので、県の計画

は県の計画として大事だと思いますけれども、もう少し広域的な連携なり協力なりと
いうことができるものについては、ぜひそういう視点で取り組んでいただければな
と思っています。

- それから、先ほど人口移動のご紹介もございましたけれども、やはり相変わらず女
性の流出が続いているということで、これは麦野委員からご紹介いただいた方がいい
かもしれませんけれども、先般富山経済同友会で、東京で就職あるいは働いておられ
る女性の方々にお集まりいただいて、いろいろなご意見を聞いたり富山へUターンし
たらどうかというような勧誘もしたりしておりました。その中で私が感じたことで
すけれども、最近、長男長女時代になってきて、男性の場合はうちを継がなければい
けない、あるいは墓を守らなければいけないなど、ある意味義務感のようなものがあ
って、県外へ進学されてもまた富山県へ戻ってくるというような、そういうインセン
ティブというか、そういう力が働いているような感じがするのですが、女性の場合
はそういうことがあまりなくて、どこへ行ってもいいやというような感じで、なお
かつ進学される数は、最近はまだ女性の方が男性よりも多くなっているという時代
で、そういう意味で、逆に県外へ進学された意欲的な女性が、やはり富山へ戻って生
活したいわというように思ってもらえるような県になるとというのがこの基本計画の
目標というか、そうなったらいろいろここに書いてあることが実現されてくるので
はないかなと思っています。

特に、女性の目線でいろいろなことを考えるということは、われわれ、私らも反省
しなければいけない点が多々ございまして、そういう行政をいろいろやっておられ
る方も、ここに、向こう側に並んでおられる方はほとんどが男性の方で、どうし
ても男性目線になるところがありますので、そういうことも踏まえて女性目線で考
えて、女性に選んでいただけるという考え方が、将来、今後女性が戻ってきてい
ただくには非常に大事なことかなと、その結果として本当に女性がどの程度戻っ
てくるのかというのが、こういう政策の評価をする意味の重要な指標になりうる
のではないかなと思っています。

【麦野委員】

- 今、久和委員の方からも少しお話がありましたが、まずこの総合計画のことから
言いますと、私はこの三つの基本政策、それを支える重要政策として人づくりとい
うものを置いていただいているのは大変ふさわしいというか、考え方とすれば、私
はこのとおりだと、こんなふうにまず思います。そんな中で、人口移動の話も先
ほどありました。女性の25～35歳、ここが減っているのだということは、もう事
実としてありました。

先日、経済同友会で「富山おかえりプロジェクト」ということで、富山出身の方、
あるいは富山で関係のある方に、東京で頑張っている25～30歳ぐらいの方と接
点を持ちました。こちらからは28名の会社のトップの方、そして向こうからは、
東京では40名の女性の方に来ていただきました。いろいろな話を聞いたのですが、
第一の感想とすれば、何せ大変しっかりしておられる方々ばかりでした。いわゆる
恐らく中学、高校のときから一生懸命勉強して、東京に行って頑張ったと。そし
て東京の大きな会

社で働いて、今も充実した生活をしておられると。仕事の面ではこんな感じだったの
だろうと思います。ですが、ふと振り返ると富山には両親がいる。だいぶ高齢化して
きたといったときに、ふるさとのことを思い出したと、こんな方々だったと思います。

その後、いろいろな話をしましたが、接点も何人かは持たせていただいています。
そういう意味では、参加された方が皆さん「大変いい会だった」と言っていたいた
のは大変うれしいことだと思っています。そんな中で、先ほども今、大変一人一人方々
は大変優秀な方々だということは事実でした。この方々がみんな帰ってきてくれると
うれしいなという気もしました。ということは、やはり何らかの形で接点は持ってい
くべきであろうと、持ち続けるべきだろうということも、結論であったわけでありま
す。しかし、考えてみると、この方々が、やはりいろいろなところでもまれて、いろ
いろなことを見て聞いて素晴らしい方になったということも半面事実です。そういう
意味ではやはり教育という面では大変大事ですし、いろいろなことを経験していただ
く、見ていただくことも大事。ただし、ぜひ何かのときにふるさとを振り返ってもら
うということを、先ほども久和委員からありましたように、魅力のある県であり続け
ると、あるいは閉鎖的ではない、受け入れるという県であるべきであるというのが一
つの結論であります。

- そんな中で、教育の話にちょっと触れるのですが、教育県でありますということも
至るところに書いてありましたが、これが本当に教育県なのかと、これが私は進学県
に陥っては大変な間違いになってしまうと。やはり学力だけではなくて、文化、
教育、スポーツ、それからふるさと教育、自然教育、いろいろな意味でのふるさと富
山をもっともっと小さいころから親しんだり勉強したりすべきだと、今さらながらに
自分たちがふるさとのことをあまり知らなかったということを反省しています。立山
の自然のことも知らないことがたくさんあります。こういうことをやはり小さいとき
からやらないと、後から知ってはもう遅いと思います。そういう意味では、この教育
のところで小学校のときに知るべきこと、経験すべきこと、そして中学、高校、それ
ぞれの段階でそれを教育の中に組み入れていただければと思います

【吉村委員】

- 私は昨年6月に赴任したばかりで、途中からこの委員としていろいろ参加させてい
ただきました。それで、実はそういうことがありまして、一生懸命勉強しました。
- 最初に感じたのは、この計画が実現すれば非常にいいなと確かに思いました。細か
い点は皆さんいろいろご意見があるかもしれませんが、全体としては、これが実現す
れば大変いいだろうなという印象を受けました。が、ちょっとその後考えを変えまし
て、実現すればいいなではなくて、それは県外の企業っぽい、何かマスコミらしいち
よっと距離の置いた言い方だなとふと思ひまして、「いや、実現させなきゃ、マスコ
ミであってもさせなきゃ駄目なんだろうな」というふうに考えをかなり変えまして、
ちょっと三つのことを今高岡にある北陸支社から指示しておりまして、今進めており
ます。
- その一つというのは、この総合計画が正式にまとまりますと、これについて分かり
やすく県民の方に伝えなければ駄目だろうと。これも当然、板倉社長の北日本新聞さ

人も同じようなことをされると思いますので、これは新聞社として当然のことです。

- ・ 二つ目は、新幹線時代ということですので、今度福井に延伸になりますので、それをちょっと見すえたことをやらなければ駄目だろうと思います。といいますと、最近福井県に行く機会が何回かありまして、もうご存じの方も多のですが、福井の駅にはもう既に新幹線の駅の外郭が出来上がっておりますし、芦原温泉などは加賀温泉などと手を結んでいろいろなことをやろうと一生懸命、加賀温泉もこれから延伸されていきますけれども、というような実態を知りまして、富山から福井に行きますと、富山県から来たというだけでいろいろなことを聞かれまして熱意を感じました。既にひそかに富山市や高岡市にいろいろなことを調べに来ている自治体の関係者みたいなものを知って意外と驚きましたけれども、それだったら逆に富山県がいろいろな情報発信をして、北陸のメインや中心になっていくのではないかということで、若干富山ファーストの考え方でいろいろ進められることができるのではないかと考えておりました。北陸全体で考えたいということを示唆しております。
- ・ 三つ目は、それに沿ってこの計画をよく理解した上で、支社はさまざまな事業をやっておりますので、人づくり、人材育成なども含めてご協力できることが多々あることに気が付きましたものですから、新年度からそれに向けていろいろやらせていただくと考えております。ということもありまして、自分たちもこの計画に参加する県民だという意識でちょっと取り組ませていただこうと考えております。
- ・ 今、後ほどよく読ませていただきまして、非常によく出来上がっていると確かに感じさせていただきました。

【勝田委員】

- ・ 先ほどから本当に素晴らしい計画案を見させていただきました。部会長さん方も、これを地域住民にいかに分かりやすく伝えるかということ、皆さんおっしゃっていたかと思えます。私はせっかくこういった計画のようなものを、やはりどういうふうにして伝えていくかということがとても大切かなと思います。人づくりという意味におきましても、こういうことをやればいいのだな、こうしたらいいのだなということは伝わっていくかなと思います。
- ・ よく感じましたのは、私は朝日町に住んでいるのですが、知事さんが、朝日町にいらしたときに、素晴らしいパワーポイントで、今県政がどうなっているか、どういうふうな政策をしているかということ、本当に細かくおっしゃっていました。そのときに、「ああ、なるほど」と、めったにそういうことも、会うことができないのだけれども、そういうことを聞くに当たって、「こういうことに気を付けなきゃいけないんだ」「こうすればいいんだ」などとお聞きすることができました。
- ・ それともう一つは、最近ですけれども、食品ロスについてテレビで流れている「気を付けましょう」ということが言われています。ああいう意味での、こういったマスコミを使ったテレビなり、それからスマートフォンなどを使って「県では今こういうことをやっているんだよ」と、「こういうことに気を付けてほしい」「こういうのをやってほしいんだよ」ということを発信していただければいいかなと思います。

- ・ それと、先ほどおっしゃいました、県外へ流出するという女性の方について、高校生が行く前の教育というのも大事なかなと思います。私は高校へ食育のことについて行くのですが、そういう意味で、郷土料理や富山の良さというものを耳にしたいなということで、行く前の教育、それとまた、来られた方、富山大学やいろいろな短期大学がありますよね。富山に来られる県外の学生さんたちが「ああ、富山って素晴らしいな。とってもおいしいし、人情もいいな」ということで、そういった魅力ある富山県であることはもちろんなのですが、そうすると、「ここに住んでみようかな」「住んでみてよかったな」と思えるのではないかなと思います。

【尾山委員】

- ・ 先日も活力部会の方でちょっと話をしていたのですが、富山県の売薬ですが、この前、3.11の大きな地震があったときに、本当にこの売薬の薬があっただけでよかったという人がたくさんいらしたものですから、うちの親戚にも何軒か北海道へ行ったり、九州の方へ行ったりして売薬の仕事をしていた人がいたのですが、結局お父さんがお父さん一代で終わってしまって息子さんがどこかの会社へ勤められたのです。そういう人が多くて、売薬している人がとても少なくなって、特に私は射水市の新湊なのですが、農家をしていたお父さんたちが、たくさん売薬さんがいらしたのです。ですが、もうほとんど後継者もいなくて、そのお父さんたちが亡くなってしまって、いらっしゃらないのですが、どうして後継者がいなかったのかと聞いたときに、やはりそれだけでは生活ができないと。やはり1年中回っているのではなくて、またそのお金を取りに行き置いてきて、またうちへ帰ってきて、何カ月か行って、また地方へ行くと、その間の生活がやはり1年生活するのに、最低300万か350万か知りませんが、それだけの収入が得られないために生活ができないから子どもに継がせたくない。

そんなときに私はひょっと思ったのですが、富山に帰ってきたときに、今度また地方へ行く間の働く場所ですね。そういうものを何か優先的に帰ってきたらここで働くところがあるのだと、ここで何カ月間か働けば、またそれだけの収入があるから、また楽しみながら地方へ回って来られると、何かそういうふうなことを地域と行政とで考えてあげられるようなこと。それで、結局そのお父さんが亡くなられたもので、息子さんが会社へ行かれて、そのお嫁さんが自分が働いている合間を見ながら、土日にその置き薬を置いてあるところを近くの方を回って歩いていらっしゃるのです。だからやはり悪いことではなくて、行けばみんなに、住民に喜んでもらえる、その置いてあげているところの人たちが喜んでくれていると、そういう気持ちが身に伝わるから、結局息子でなくてお嫁さんが今一生懸命頑張って近いところを回って置き薬を置いてきてくださっているのです。

ですから、私は何かそういうことを地域や行政で、もしカバーができるのだったら、もっともっとやはり私らは近くにそういう置き薬があるのは当たり前のように思っています。でも、とても日本中にどこを探してもこういうことをしてくれるところというのは全然ないと言われたのです。ですから、これをやはり私はもっともっと県民として薬を作っているところもたくさんありますから、大事にしていった方がいいの

ではないかなということ、いつも地方へ行くと「富山ですか。富山の置き薬いいですね」とよく言われるものですから、もしできることならこれを細く長く、日本中の方たちにもっともっと広めていってあげる方法がないかなと、そういうふうについて思っております。

【尾谷委員】

- 先ほどからいろいろ話が出ておりますけれども、富山県はもともと三世同居率が高く、勤勉性の高い県民なのでございますけれども、昔の話をすると、先ほどから教育の話が出ておりますけれども、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんにいろいろ社会教育など教えてもらって、その動きが昔はあったのですけれども、今はそれぞれの社会情勢が変わって非常に忙しい社会の中でお父さん、お母さんが働いておられるものから、そういうことを教える仕組みがなくなっているというふうに思います。

先ほどからも、出ていますが小学生や中学生、高校生の中で、社会産業教育を教えることは大切になっている。その手法として、学校の先生に言うのもまた大変でありますし、かといって各富山県の部局の職員の皆さんにそれを補ってくれということも、これは大変だろうと思しますので、社会教育をサポートしていくような仕組みも必要ではないかと。

- 「総合」の部分の、富山県に住んでよい、富山県で働いた方がいい。結局都会にいるよりも富山県で生涯働いた方が得するのだよという見開きの資料が商工労働部にありますけれども、中学生や高校生、大学生の皆さんにそれを見せてあげて、かつ親御さんにもその内容を見て、どうしたら夢のある、ロマンのある富山県は元気がある、幸せになれるという、そういう意味合いを子どもに教えていくことが大切になっているのではないかなというふうに思います。
- もう一つは、今のこの計画が、先ほどから出ていますように、基本計画があつて、これをどうやって実施計画としてきちっとしていくかということが大切であろうかと思しますので、予算の関係もあろうかと思っておりますけれども、都度実施計画書的なものを部局の中で多分作られると思うのですけれども、そういうことをチェックしながらやっていくことが県民のためになるというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

【庵委員】

- 総合計画は各種委員からの細かい点も反映しながら、また各地域の連携も触れながら、従来の60から100の政策としてまとめられました。大変ご苦労だったと思います。あくまでインプットは大して変わらない。アウトプットは100に膨れ上がるという意味では、書かれているように効率的な、またスピードを求められる県政といったところが実施に移すときには大切だろうというふうに思います。そういう意味で、これらの政策の中にはこの5年にわたり継続的に、またはある時期重点的にといった形で取り込まれる形になろうかと思しますので、そうした点をいろいろとめりはりも考えながら、ご苦労がございましたけれども、スピードを持って実施に移していただ

たいと思います。

- ・ 皆さま方に大変期待しておりますので、よろしく申し上げますし、こちらに書いてございますとおり、私どもの計画だという認識でいろいろとまた関与できる点はしていきたいと思っております。本当にご苦労さまでございます。

【惣万委員】

- ・ まず教育の面で、富山の歴史を子どもさんたちに考えて、教えてほしいなど。例えば「富山城の殿さまは誰ですか。一人でも言ってください」と言って、クイズに答えられないのです。高校生でも大学生でも、佐々成政も出ないし、神保さんも出ないし、まず歴史。
- ・ それと、今日ここへ来たのですけれど、この道ががたがたなのですね。「安心とやま」といってもこの駅のこの近くの中心街で、これでがたがたでいいのかなと思います。タクシーの運転手さんが言っておられたのですけれど、つい最近高山に行ったら、高山はすごくすべすべで、こんながたがたではなかったということをおられます。
- ・ あと私は、がんが2人か3人に1人などといわれていますけれど、このがんの人たちをサポートするピアサポーター、年に14人増やすと言っていますけれど、本当にそれでいいのか。がんの人たちはもっともっと悩んでいますし、働きたいとも言っておられますので、もっと力を入れてほしいなと思います。
- ・ それと、女性の管理職について、校長先生の女性は多いのですけれど、例えば県や市の管理職といったらほとんど男性ですよ。それをもうちょっと女性にしてほしいなと思います。
- ・ この計画に富山県人は、勤勉でまじめなどと書いて、それが確かに自慢であり、それが本当にいいのかもしれない。だけれど、それだからこそつらい面もあるので、もっと何かユーモアがあるとか、面白い人間というのですか、それをやってほしいかなと思います。
- ・ それと、介護と看護の連携。介護福祉士さんが今病院で働いています。介護現場では少ないといっているのに病院で働いている。それはそれで別に批判はしていません。でも、私たち看護婦も介護現場で働いています。介護と看護の連携を富山からかなり発信して欲しいかなと思います。
- ・ それと、もう一ついつも言っていることは、平成12年度に介護保険制度が始まりました。そのときの基本理念は、「施設から在宅へ」、そして利用者本位だったはずなのです。そして今、十何年たってまだまだ施設を造ろうとしています。これには疑問があります。そして利用者本位が家族本位になってきています。そのことを言わせてください。

【永原会長】

- ・ ありがとうございます。ここでいったん打ち切りまして、各委員さんのご発言につきまして、石井知事からのコメントをお願いします。

【石井知事】

- ありがとうございます。大変多岐にわたる貴重なご意見を頂きましたけれども、全般に計画の内容は大変素晴らしいといただくくださった方、それなりだなと言っていた方、いろいろあるように思いますが、要は実行をしっかりとやることが大事だというご意見が非常に多かったと思います。その点については、これまでの総合計画でもそうですけれども、毎年度県の次長クラスで評価する連絡会議をつくってしまし、また地方創生の計画というものを5年間の計画を、別途2年間ほど前にも作っていますし、この場合は外の学識経験者にも入ってもらって、進行管理というか実施状況をチェックしていただいておりますが、いずれもその評価については毎年対外的に公表しまして、県民の皆さん、もちろんマスコミや各界の皆さんにもそれを見ていただけるようにしておりますが、計画は作ることが目標ではなくて、せつかく各委員の皆さまの貴重なご意見を反映させた計画ですから、これを毎年毎年 PDCA サイクルを回して、しっかり実行していく。またお話に出たように、いったん目標を決めたからといって世の中の変化もありますから、それにあまりにもとられるのではなくて適切に見直しもしながら、まずしっかりと実行してまいりたいと、またできるだけスピード感を持ってやっていきたいと思っております。
- また、何人かの委員の皆さんから、人づくりというのか、人材育成というのか、やはり各分野でそれぞれの課題、テーマをしっかりと担う人材が大事だとか、また、例えば活力の分野と未来の分野、こうしたものの連携。例えば産業などを担う人材をどう育成するか、そうした総合的な視点が必要だというようなお話もありました。そのとおりだと思いますが、委員の中からも言っていたように、活力、未来、安心を基本政策としながら、全体を通じて人づくり、人材育成というものがそれらを通じる重要政策であるというふうにご計画では整理しておりますので、そうしたご指摘の点も踏まえてしっかりとやっていきたいと思っております。
- また、人口の社会移動との関係で、かなり東京への集中というのがある中で、特に女性の方がなかなか富山に戻ってきていただけない比率が高いということとの関連で、先般の経済同友会でのいろいろなお取り組みについてもご紹介がありました。これは県もお手伝いしましたけれども、本当に経営者の皆さんご自身が東京に出向いて40人ぐらいのキャリアの女性といろいろと話をされたということについては、大変ありがたいことと思っております。お話に出たように、男性はかなり戻ってくださる方が増えてきて、そういう意味ではいいなと思っております。女性の方にも富山で活躍したいなと、あるいは東京で頑張ったけれどもこの機会に富山に戻りたいなと思ってもらえるには、やはり男性の場合もそうですけれども、ご本人がそれなりに納得できる働き口が必要だと、活躍できる場が必要だということが一つ。

それとやはり、特に女性の場合は、結婚・妊娠・出産・子育てというような重い課題もどうしても男性以上に負担が重いという面がありますから、そういった点で、富山県は子育て環境は全国でもトップクラスでいいところだと思いますけれども、そういったことの実事や PR も図るとともに、女性の皆さんがやはりふるさと富山で大いに自分の力を発揮したい、活躍したいと思えるような、どういう場を用意できるかということが大事です。

そのためには、既存のものづくりや製造業や建設業、農業、いろいろな分野で女性の皆さんが活躍できるような職場環境や、あるいはキャリアアップのシステムをつくるなどいろいろな配慮が必要なのですけれども、併せて、今例えばデザインといったことに力を入れたり、さまざまな企画的な仕事、また知性だけでなく感性が問われる分野の仕事、そういうものをもっともっと富山県の産業を幅も広げる、深みも付ける。多彩なものにする。そういう努力をこの計画の中にも盛り込んでおりますけれども、そういう努力をしてまいりたいなど。

- それからもう一つ、私も男性でありますから、そういう点があると思うのですけれども、やはりそれなりに理解したり、配慮しているつもりでも、やはり女性の目から見ると、やはり男社会の中につかた発想だなと思える点がやはりあるようであります。そういった点も含めてこの中にも何人か宣言してもらいました、イクボス宣言を私もいたしておりますので、そういう面からも女性の皆さまの意見なり、あるいは大いに活躍できる、その代わり責任も持ってもらう。そういうシステムをいかに会社の中、さまざまな分野、産業もそうですけれども、県庁も含めて努力していかなければいけないと思います。
- それから、観光の面で全体の GDP の幾らにすると、その中で観光のシェアを例えば 15% にするといったような県もあるというお話もありました。そういうアプローチもあると思いますし、そういう物差しも持っていけないといけないと思いますが、富山県の場合には、GDP 全体で見ると多分北陸の中では一番大きい。特にものづくりについては工業出荷額で言うと、北陸 3 県の確か 4 割が富山県だったと思いますので、その代わり観光の面では先行している県がある。従って、ものづくりなど、そういうところもさらなる飛躍を目指すためにいろいろな計画を中に盛り込んでおります。併せて観光も幸い、発射台は低いのですけれども伸び率が大変大きいものがありますから、観光についてまだまだ富山県は発展途上県だという自覚を持ちながら、新たな飛躍を目指していく。そのために立山黒部の世界ブランド化や「世界で最も美しい湾クラブ」など、いろいろな取組みを引き続き着実に進めてまいりたいと思います。
- また、人づくり、人材育成が必要で、その一環として、教育に携わる方の研修というか教員の方の質の向上といったようなご指摘もありました。こういった点は当然大事なご指摘でありますので、そうした点でも文部科学省に教員の研修の拠点として富山県を選んでもらったという経過もありますので、そういう富山県の強みをさらに充実強化していきたいと思います。
- また、売薬、置き薬の文化や、富山県のふるさととしてのいろいろな魅力、また祖父母の方、父母の方、子どもたち、そういう世代を超えた富山の良さの伝承のようなことも含めて心がけてまいります。
- それから最後に、いろいろな皆さんからお話がありました。この計画をご評価いただくと同時に、要は実行だと。それは委員としてせっかく計画の中身に参画したのだから、実行についても大いに参加して、その一翼を担いたいというご発言が何人かの委員からございました。大変ありがたいことで、今日お集まりの皆さまとともに、この計画がしっかりとした形で実行されますように、私を含めて検討して頑張っておりますので、どうかひとつよろしく願いいたします。

【永原会長】

- ・ ありがとうございます。それではそろそろ予定の時間が参っておりますので、取りまとめを行いたいと思います。今日は、新総合計画の答申案について、委員の皆さまからご意見を頂戴しましたが、本日頂いた種々のご意見を踏まえた修正につきましては、会長である私にご一任いただき、その修正したものをこの審議会の答申として決定することといたしたいと存じますが、いかがでしょうか。（委員から異議なしの声）

ありがとうございます。それでは、ただ今委員の皆さまからのご了解を頂きましたので、必要な修正を行った上で、今月中旬には、石井知事に対して答申したいと存じております。

(5) 会長挨拶

【永原会長】

- ・ 最後に、私の方から一言ご挨拶申し上げます。一昨年12月に知事から新総合計画策定について諮問を受けまして、以来、委員各位のご協力を得ながら、約1年2カ月にわたりまして審議を行ってまいりました。本日、審議会として取りまとめを行うことができ、大変うれしく存じます。これまで、大変熱心にご検討いただきました委員ならびに部会に出席いただいた専門委員の皆さまに、改めて深く感謝申し上げます。また特に、各部長さん、副部長さんには、各部会での取りまとめに当たり、大変ご尽力を頂きましてありがとうございました。
- ・ 今回の計画策定は、第4次産業革命への対応、働き方改革など、時代の変化や新たな重要課題がある中で、基本政策の充実はもちろんのこと、人づくりと合わせて100の政策を設けたこと、また、本県の発展や県民の幸せのため重要な政策課題であって、優先かつ横断的に取り組む「重点戦略」を提示するなど、「とやま新時代」にふさわしい県政運営の指針となるものではないかと存じます。
- ・ 一方で、この計画に盛り込まれた内容を、今後、どのように具体的に実現していくかということが、大変重要となってまいります。また、こうした施策を実施するに当たりましては、県だけでなく、市町村、地域の団体やNPO、企業そして県民の皆さん一人一人が、自らの役割を認識しつつ、積極的に参画することが不可欠と存じます。
- ・ 県におかれましては、この計画の趣旨を踏まえ、具体的なアクションプランを作成し、しっかりと実践していただきたいと存じます。県民との協働による着実な実行こそが、今後、富山県が大いに発展・飛躍する大きな鍵になると存じますので、ぜひよろしく願いいたします。

それでは、最後に石井知事からご挨拶を頂戴したいと思います。

(6) 閉会

【石井知事】

- ・ 今、永原会長からお取りまとめの挨拶がありましたけれども、本当に一昨年の12月から、今日ご参会の皆さま方には本当にいろいろな場面で審議会、あるいは部会、いろいろな委員会、またそれ以外の場面でも、それぞれ大変貴重なご意見を頂き、ま

たこれからの実施面でも各分野のリーダーとしてそれぞれご尽力いただける方でありますので、本当に感謝申し上げたいなと申します。

- ぜひこの計画を、先ほども申し上げましたように、ただ立派な計画ができたということではなくて、しっかりと実行していくことが大切でございますので、また県としても精進して頑張ってもらいますけれども、ご参会の皆さま方には、またそれぞれの立場で引き続きのご指導と、またご尽力、ご協力を頂ければありがたいと思っております。今日はどうもありがとうございました。

【永原会長】

- ありがとうございました。それでは今日はこのあたりで会議を閉じたいと存じます。長時間にわたり議事進行にご協力いただきまして、どうもありがとうございました。